



2020. 1. 9 木  
18:00~20:00

@ 府中キャンパス  
 アゴラ・グローバル 3F  
 プロジェクトスペース 1

使用言語 日本語 / Japanese  
 予約不要・先着順

CAAS ユニット ブックトーク

## 茶道建国：日本らしさと茶の湯

日常生活における国家の役割とは何か。文化はどのようにして国家を象徴するのか。国際化社会において、これらは何を意味するのか。『MTMJ: 茶道と日本らしさ』は茶道を通じて、このような問いへの答えを探り、国家と国民文化との関係を明らかにします。本講演では、茶道が外国人だけではなく、日本人にとっても「日本人らしさ」を感じられる文化体験として成立していった過程を取り上げます。エリート層の嗜みから主婦の習い事へと変化し、国民文化として国民全体に開かれる様子や、茶道と日本文化の結びつきに家元がどう関わっていったのかを通じて、「国民国家を作る」という近現代の最も重要なプロセスを考察します。10年以上茶室で習い、日本、アメリカ、中国、韓国の茶道教室を巡り研究を続けてきた著者は、現在ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）ロンドン大学政治学・国際総合学科准教授を務めています。



### クリステン・スーラック

(SOAS London, TUFS CAAS Unit)

ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）ロンドン大学政治学・国際総合学科准教授。現在、東京外国語大学 CAAS ユニット特別招へい教授。人口移動・ナショナリズム・政治社会学を専門とし、現在は投資移住制度の起源と伝播を研究。主要な学術雑誌での論文掲載の他、Washington Post, London Review of Books, New Statesman などの雑誌に寄稿している。著書『MTMJ: 茶道と日本らしさ』はアメリカ社会学会の年間大賞を受賞。BBC, Deutsche Welle, Channel News Asia TV, Sky TV News などメディアへの出演も多数。

#### ◆コメンテーター

#### 名児耶明（元公益財団法人五島美術館副館長）

1949年生。著書に『書に心を寄せる』（新潮社）、『茶掛を読む1 かな』（講談社）、『書の見方－日本の美と心を読む』（角川選書）、編著に『日本書道史年表』（二玄社）などがある。

#### 石黒宏一郎（古美術商石黒ギャラリー、アルテクラシカ店主）